ぬくもり情報局

森林セラピー通信 森のたより

花言葉は「永遠にあなたのもの」

早春、森の中には、黄色の花が多く見られるようになります。その中でも、特に香りもよく、かわいい「ダンコウバイ」の花が、セラピーロードに春が来たことを教えてくれます。山の木々が芽吹く前に花が咲き、そのあとに葉が出てくるため、遠くからでも目立ちます。クスノキ科クロモジ属の植物なので、枝を折って香りをかいでみると、良い香りがします。

ダンコウバイの花。枝はクロモジと同様につま楊枝の材料に

びっくり?!霜柱のできるメカニズム

キーンと冷えた朝、庭など土の上を歩くと「ザクザク」と音が。そう「霜柱」です。

霜柱。県民の森で発見

さて、おなじみの霜柱ですが、どんな風にしてできるのかご存知でしょうか?まず、気温が氷点下になると、適度に湿った土の表面が凍ります。そして、地中の水分が毛細管現象によって、土の粒の間の細い隙間を通って地表まで移動し、地表で凍っている部分を押し上げながら凍っていきます。簡単に言うと、氷の柱が「地面から生えてくる」ということです。

身近な自然を、いつもと違う「科学の視点」で見てみると、違ったおもしろさがあるかもしれませんね。

飯南町国道54号活性化アクションプラン推進協議会

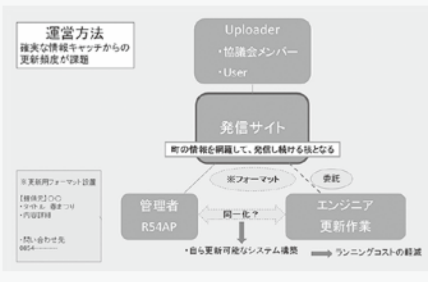
飯南町について発表する島根大学生

設立から10年を迎えた、国道54号活性化アクションプラン推進協議会。しかし、どんな目的で、どんな活動をしているのか知らない人も多いのでは?本協議会の取り組みを連載で紹介します。

■問合せ
国道54号活性化アクションプラン推進協議会
(い〜にゃん人つなぎ協議会)
電話76・2864(地域振興課)

まちの「情報発信力」を高める活動

情報発信部会では、町内の情報発信に関わる活動をしています。今後の具体的な取り組みとして、町内各地で行われている住民主体の催し、コミュニティ活動、四季を感じられる情報などを"共有"できる仕組みづくりを考えています。そのひとつとして、今、知りたいことがリアルタイムでわかる「町の情報サイト」づくりに着手しています。



情報などを"共有"できる仕組みづくり

「知らなかった」「知りたかった」を減らしたい

本協議会では、飯南町で行われているシンポジウムやフォーラム等で、学生をはじめ、さまざまな方から指摘されている"情報発信力"を大きな課題として捉えています。町内各地で行われている魅力ある催しや「知りたい・やりたい・参加したい」といったプラスの力を線でつないでいくようなイメージで、「知らなかった」「知りたかった」を減らしていきたいと思っています。

今後の展望

この取り組みが、新しい活動のきっかけや原動力になればと思っています。また、町内で一番有効な力は"口コミ"だと考えており、その口コミの種をまき続けられるよう持続的に取り組みます。また、情報の発信元と受け手のミスマッチも課題となっているため、解決策もあわせて探っていきます。

そして、観光産業として情報発信をしている観光協会や、町の広報を発行している行政との連携、町内各機関による協力が不可欠なので、連携・協力を図っていきます。

俳句

琴峯華俳句会 二月例会作品抄

春光の両手かざせば指間より　安部　豊枝
倒木の梅にも花の咲き萌し　石田シヅカ
梅白し人の心もかくあれと　垣内　良野
姿なき梅の香に足止められて　佐々木康子
風のほほなでてゆく日や梅の花　田部智津子
手を上げて渡る園児に梅香る　森　征子
紅白の梅に誘われ靴軽し　土池　博子
梅の香にもてなされ辞す小半日　松平富美子
探梅の梅に待たれてをりにけり　八嶋　敏江
雨滴光るあたりの梅ふふむ　山碕智恵美
箸の音一人の夕餉冬灯　八嶋　昭男

短歌

赤名短歌会 二月例会詠草

太陽のひかりに揺るる蜘蛛の巣は春待ちて見上ぐ万華鏡とも　岩佐　恒子
心愛ちゃんは地獄のような苦しみに愛されなくても親を愛してた　門所　詠子
海の街の舗道に跳ねたる幼子のおでこ輝く春のひかりに　星野　敦子
ふまれても踏まれてもなほ芽吹く雑草に春は等しく生命を紡ぐ　清原　豊明
薄氷の解けやらぬまま昼深し路地に子供らの声絶えにけり　澤田久美子
迫りくる鬼をめがけて豆投げて豆を煎るよに逃げる園児ら　島田　勝信
パリパリと氷ふみ割り子等の行く真冬の景色に遠きわれあり　吉川　暎子
中空に寒月あきらけく昇りたり一村の夜を引き締めながら　石田フクエ
ぼろぼろの吾の手ひきゆく三人の子県病に待ち居る元宋の大画　澤田　勝登
節分の豆撒く声も小さくて雨戸もひっそり音低く閉ず　本間　麗子

やすらかに

2月届出分

お名前		親族	地区
梶原　努様	(45)	耕	(下来島)
長島　國夫様	(85)	隆義	(敷波)
島川　光夫様	(89)	光司	(真木)
大谷　利榮様	(82)	和弥	(川西)
朝津　フミコ様	(100)	孝二	(赤名)

今月の表紙

3月10日、来島基幹集落センターで「ひなまつり」が開催され、約50人が集まって桃の節句をお祝いしました。

地域の皆さん所有のひな人形が飾られたほか、参加者が作ったフラワーアレンジメントも飾られ、華やかな会場になりました。また、高校生と小学生が一緒に作ったいちご大福を食べながら、ピアノとウクレレの伴奏で春の歌を歌い、幅広い世代が交流を楽しみました。

今月の人権標語

「家族でつくる人権標語」優秀作品から

笑顔咲く
　家族の会話
　　大切に

赤名小6年　迫田　来飛さん
家族名　迫田　美奈子さん

標語に込められた思いを町民みんなで意識し、差別や偏見のない明るいまちづくりをめざしましょう。